



▲フリーペーパーを手に
左から長坂さん、押越さん、水町さん

フリーペーパー おおだびより

Uターンした若者たちが発行

大田の「いいところ」を紹介しています

大田の「いいところ」情報が満載のフリーペーパー「おおだびより」。このほど、2刊目となる冊子を発行しました。これを編集しているのが、市内にUターンした若者4人のグループ「おおだびより」の皆さんです。

「おおだびより」は、県外からUターンした大田好きの4人（押越雪彦さん、水町香織さん、長坂響子さん、平井寿法さん）がメンバー。

イベントの開催や大田の話題を紹介するフリーペーパーの発行など、楽しみながら活動を続けています。

4人は平成24年に、空き店舗を利用した音楽イベントを開いたことをきっかけ

に集まり、活動をスタートしました。

大田の魅力を知ってほしい

イベント活動をしていくうちに「大田には多くのイベントを開催しているカフェやバーがあるが、それぞれが単独で宣伝していた、もったいない」と感じていたそうです。

そこで、イベント情報を一括して得ることができ、情報誌を発信したいと、フリーペーパー『おおだびより』は出来上がりました。

『おおだびより』には、大田市のカフェやバーのイベント情報をはじめ、お店の情報など、大田の魅力が

書かれています。

また、「大田のいいところ取材」と題した、4人がお薦めする場所や人を紹介するコーナーには「こんな所や人がいるのか」と思わせるような面白い情報が満載です。

「今後は年4回の定期的な発行を目指し、さらにフリーペーパーの置く場所を増やして、もっと多くの人を読んでもらって、大田のいいところを知ってもらいたいです」と抱負を語ってくれました。

『おおだびより』は市内のカフェなどに置かれ、誰でも読むことができます。大田の魅力をみつけたいかたは、ぜひ一度、手に取ってみられてはいかがでしょうか。



▲おおだびより——大田 love がコンセプトの情報誌です



4市場を統合し 水産物卸売市場が完成

も増え、今後の販路拡大や販売単価の向上、良質な水産物の安定供給につながるものと、漁業関係者は新卸売市場の完成を喜んでいました。

新卸売市場の年間の水揚げは約8,200トン。県内のほか、広島や京阪神方面に出荷され、取扱金額は33億円を見込んでいます。

なお、島根県及び大田市では流通の迅速化と安全確保のため、現在、統合市場への接続道路の新設や周辺県道の改良工事を進めています。

高度な衛生管理と鮮度維持

市内4つの魚市場（久手、和江、五十猛、仁摩）を統合した「JFしまね大田水産物地方卸売市場」が、静間町の和江漁港に完成し、平成25年8月23日に竣工式、9月1日に初セリが行われました。

完成した卸売市場は、県内でも最高の衛生管理水準を誇る施設となっています。最新設備の高度な衛生管理と鮮度維持により、地元水産物のブランド力の向上が期待されます。

また、市場統合により集出荷の合理化が図られるほか、取扱量が安定することで仲買人

ブランド力のアップに期待